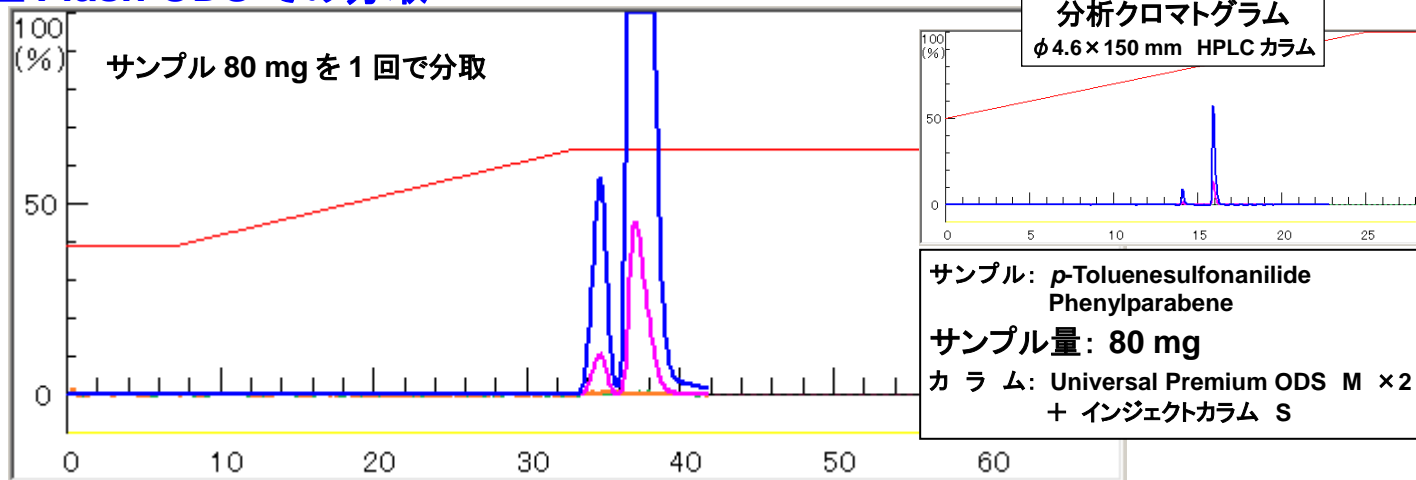


Flash ODS Premium の驚異的分取能力 逆相での分取は1回のクロマトで終わります

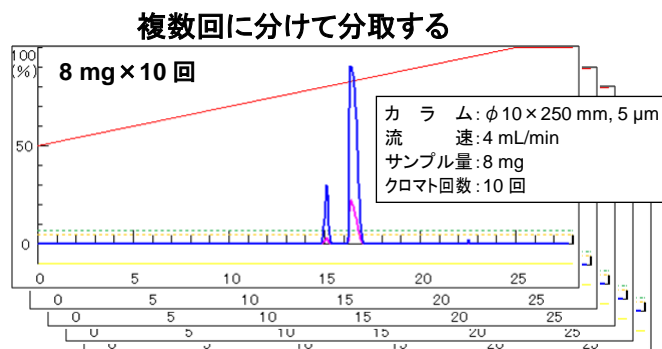
— 数十 mg～のサンプルを1回で分取 —

Flash ODS での分取



1回のクロマトで目的のサンプル量を分取することができている。

HPLC(セミ分取カラム)での分取例

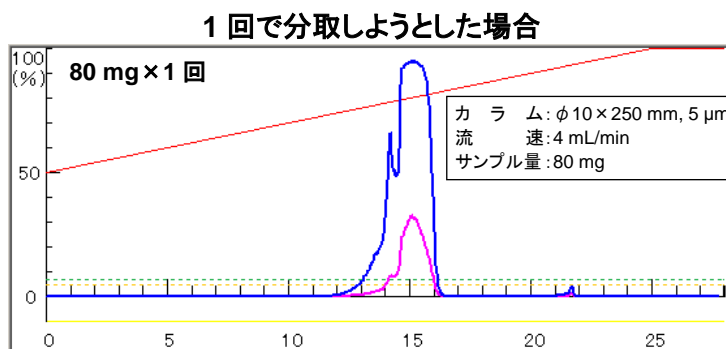


HPLC 分取ではサンプルが溶けづらくボリュウムが大きくなるため、複数回に分けて分取を行う。

(80 mg を初期溶媒 4 mL で溶解)

クロマト30分+洗浄15分+再平行15分を10回行う必要がある。

**サンプルが分取できるまでに
600 分かかる**



分離しないので再クロマト

他にも

- ・溶解できる有機溶媒で溶解すると保持しない。
- ・サンプルループの容量に限りがある。
- ・システムを汚したくないので高濃度のサンプルが打てない。
- ……など、分取に使うには

HPLCは制約が多い

中圧カラムとHPLCの理論段数を比較した場合、少量(分析スケール)ではHPLCカラムの方が理論段数が高く、そのままスケールアップをしてHPLCで分取できそうなイメージを持ててしまいが、分取領域のサンプル量では、中圧カラムの方が理論段数が高くなりmgスケール以上の高負荷量条件(分取スケール)ではHPLC分取より中圧分取が適しています。

また、HPLCで分取を行う場合には、サンプルの溶解溶媒や配管・インジェクターなどのハードウェア、クロスコンタミの問題などカラム以外にも配慮しなければならない事が多くなります。

中圧カラムではこれらの問題を気にすることなく、1回のクロマトで目的の分取を行う事ができます。